

松浪中学校の生徒さんによる発表

浜竹1丁目 Aグループ

テーマ: 消火器がある場所
地震が起きたら危険な場所
防災倉庫、防火水槽

- ①消火器: 火災の際に、初期消火に使用される。本体に書いてある使用方法を確認しておくともしもの時に便利。
- ②倒れそうな電信柱: 家の方に傾いていて危険。早くまっすぐに立て直して欲しい。
- ③防災倉庫: 中には、災害時に役立つものが沢山入っている。特にポータブルトイレなど、地震が起きたときには役立つと思う。
- ④壊れかけたブロック塀: 地震が起きたときに、崩れる可能性があり、危険だと思う。



浜竹1丁目 Bグループ

テーマ: 災害時の対策

- ①安全な場所: 広場や駐車場は、周りに何も無いので安全。広いので沢山の人が避難することもできる。
- ②消火器: 火災が起きたら近くにある消火器を使って下さい。あらかじめ場所を確認しておくといいと思う。浜竹1丁目のものでも、気にせず使って下さい。
- ③防火水槽: 防火水槽には、道路の下にあるものと、道路の近くにあるものがあります。防火水槽の近くに、看板があります。
- ④防災行政用無線: 設置直後に地震が発生し、地震を知らせた。しかし、浜竹1丁目には1機しかなく、場所によっては、聞こえない場所もある。



浜竹1丁目 Cグループ

テーマ: 浜竹1丁目の防災

- ①空家: 家主が亡くなっているところでは、誰も手入れをしていないため、植物だらけになっている。
- ②貯水槽: 防災倉庫やマンションの横、公園の近くなど、沢山の人がいる場所や避難場所にある。貯水槽の上の地面は白っぽいコンクリートで、人目でわかるようになっている。
- ③消火器: 火災が起きたときに、多少は火を消すことができる。場所や使い方を覚えておくと、もしものときに便利。
- ④防災倉庫: 浜竹1丁目に防災倉庫は2つしかなく、何百人もの人が使うのに、足りるか不安だが、みんなが協力し合えば、平気だと思う。



浜竹2丁目

テーマ: 災害時に安全な場所と危険な場所

- ①行止まり: あせって行止まりに避難してしまうと危ないので、場所を確認しておいた方がよい。
- ②消火栓: 一定の間隔で設置されている。火事をいち早く止めるためには最も必要。
- ③井戸: 電動式と手動式があるが、停電になったら、電動式は使えなくなる。飲料水として使用するときは、沸騰させてから、飲まないで危険。
- ④一時避難所: 近くに病院があるので安心。周りには建物も少ないので、安全。ここに全員が集まってから、近くの学校に避難する。
- ⑤感想: 浜竹2丁目には、あまり大人が少ないので、中学生が頑張らないといけない。



防災都市づくり NEWS

4

VOL.

平成22年2月28日[日] 第4回防災都市づくりワークショップ開催

浜竹一・二丁目第4回防災都市づくりワークショップを開催

第4回ワークショップでは、「道路閉塞・火災を人・まちの視点から考える」というテーマのもと、ワークショップを通して、地域の防災都市づくりについて考えました。第3回ワークショップに続いて、第4回ワークショップでも、中学生や浜竹一・二丁目以外の方々に参加いただき、幅広い議論が行われました。また、松浪中学校の生徒さんには、地域について研究した成果を発表していただきました。

ワークショップの内容

第2回、3回目のワークショップ結果、地域点検結果等を踏まえると、以下の4つの点に意見が集約できました。そこで、今回のワークショップでは、グループごとに4つの中からテーマを選択し、アクションプログラム、その対策を実際に進めていくためにはどうすればよいか、どんな仕組みをつくれればよいか、話し合いました。また、グループ討議を進めるにあたり加藤先生からヒントをいただきました。

～話し合いヒント！！～

教科書的に普通に考えていても、良いアイデアは浮かばない。発想の転換が必要。

①固定化した常識をはずす

常識的な考え、実現可能性はおいておく。「ブロック塀は何でつくるの？」といったそもそもの素朴な疑問を問いかけてみる。対策のヒントがあるかもしれない。

②「ながら」防災 防災風味

別の目的とのセットで防災を考える。地域のお祭りでの屋台は、地域の炊き出し訓練になるかも。

③地域の底力

行政の力の限界ははっきりしている。地域の底力をどのように生み出すのか。

④小さいことから上げていく

完璧にやろうとするとしんどいので、できることからこつこつとやろう。

<第4回WSの内容>

日時: 2月28日[日] 10:00-12:30

場所: 松浪自治会館

参加人数: 23名

★松浪中学校の生徒さんによる発表

★ワークショップ

・グループ討議

～話し合いのテーマ～

- ① 一時避難場所、避難ルートの確保のためには?
- ② 危険なブロック塀を減らす・無くすためには?
- ③ 地域の火災対策は?
- ④ 地域住民の意識啓発のためには?



アクションプログラムをつくりました

グループ討議結果を踏まえ、アクションプログラムとして、対策を一覧でとりまとめました。

	班	やること	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
地域住民の意識啓発	A	楽しい行事で啓発：地引き綱イベント時、バーベキューするとき	→				
	C	組別臨時避難所確保&PR：お願い、看板たて、組合等でPR	→			
	C	町内の避難訓練、要援護者救助：避難終了カード（逃げるときにはる）	→			
	C	大人から子どもまでたくさん集まるイベントでPR：準備するもののPRも含めて（住民全員が足で）	→			
の一時避難所、避難ルート	B	候補地チェック、ルートの把握	→				
	B	看板等で住民に告知		→			
	D	組単位で確保：コミュニケーション	→				
	D	四方八方に避難したい：近所を良く知る		→			
	中B	重要な道の指定：確実に通れる、避難場所を通る					
	中B	行き止まりドア化					
	中B	安全な拠点の確保					
減らす・無くす 危険なブロック塀を	B	つくりなおす、補強：基準強化行政による支援内容、危険度周知、まずお願い	→	→	→	→	→
	B	倒した後の取り除き	→	→		
	B	子どものときからの教育					
	中A	ペットボトル、クッションでつくる：メニュー出し（らくがき消せる、リサイクルできる→（家によって異なる）			→		
	中A	だんだん低くする：ブロック塀の危険度体験					→
	中A	瓦礫を直せる穴：車が通れなくなる不便さ体験					
地域の火災対策	中A	燃えない素材を使う					
	中A	外に水道：火事体験義務化					
	中A	何軒かおきに空き地：刑罰化					
	A	密集状況の把握：茅ヶ崎ブランド、細分化→細分化禁止、畑などを広場に	→			
	A	初期消火の強化：植木を植える、スプリンクラー	→			



講評

●網羅的な議論が行われていた

非常に現実的なものから、もう少し議論を深めればできるところまで行きそうなアイデアまで、網羅的に議論されたのではないかなと思います。また、皆さんの発表の中には、「ブロック塀はなるべくやめよう」、「火事の体験義務化」など、地域でルールを作って協力することで、個人にとってもいいし、地域全体にとってもいいというような提案もありました。

●活動を持続・発展させるための2つのポイント

1つ目は、「茅ヶ崎発、全国へ」といえるような、この地域発の先駆的な取り組みがあることです。新しいアイデアをどこかに付加すると、皆さんのやる気も出てきて、結果的に長続きするのではないかなと思います。

2つ目は、危険度が高いということも地域の資源であるということです。危険度が高いからこそこういう場があるし、まちのことについてみんながよく考えます。そういう気持ちをみなさんが共有すれば、さらにこの先も発展させていくことができるのではないかなと思います。



松浪地区 防災都市づくりシンポジウムのお知らせ

- ◆日時：平成22年3月20日（土） 10:00~12:30
- ◆場所：松浪自治会館

〔第一部〕

- ・地域危険度測定調査について
- ・自助・共助・公助のあるべき姿、地震の切迫性について
- ・防災マップの発表

説明 茅ヶ崎市都市政策課
 講演 加藤先生
 発表 松浪中学校
 市川歩美さん 柏木 咲穂さん
 報告 東 淳子 さん

- ・防災都市づくりワークショップ開催報告

〔第二部〕

- ・パネルディスカッション
 「今後の松浪地区の防災都市づくりについて」